

次に、歳出の主な施策について説明します。

## 1 働きやすさ・住みやすさを醸成させるまちづくり

### 1-1 道路網の整備

道路は、市民生活と産業活動を支えるとともに、災害時には避難路ともなる重要な都市基盤です。その整備にあたっては、ユニバーサルデザインを考慮し、老若男女、すべての人たちにとって安全であり、加えて環境や防災に配慮することが肝要です。

道路整備には莫大な費用と期間が必要となりますが、国はガソリン税や軽油税など道路整備を目的とする特別な財源（道路特定財源）を一般財源化する方針を示し、東海環状自動車道など、道路整備事業の更なる遅延が危惧されます。

平成18年度の国県事業としては、国道421号石榑峠のトンネル工事が平成21年度の完成をめざし始められました。県道南濃北勢線は飯倉地内のバイパス工事と橋梁上部工事が予定されていますが、阿下喜小学校付近は交通安全対策での懸案事項が残され、引き続き県と協議を続けます。また、国道365号員弁バイパスの大泉橋から東員町南大社間と県道東貝野南中津原丹生川停車場線の東貝野から鼓の間のバイパス工事も着々と進められています。

県営農免道路丹生川中地区は、市道丹生川竹永線から国道306号間の工事が始まり、全線の完成は平成20年度を予定しています。

市道については、国庫補助を受けた継続事業として三里駅から国道365号バイパスまでの大安・員弁連絡道路、県道北勢多度線から阿下喜駅へのバイパス道路、貝野分校跡から西貝野への橋梁を含む通学道路、丹生川久下と中山を結ぶ下青川橋、日内と市場を結ぶ藤原大橋及び阿下喜と石川（太平洋セメント藤原工場付近）を結ぶ前川線の整備を計画し、新規事業として大安中学校から三里駅方面への通学路拡幅工事を予定しています。

また、国道365号バイパスからいなべ総合学園までの橋梁整備の早期着工を、合併時の約束として、県に対し強く要望していくとともに、



国道421号

第二名神高速道路、東海環状自動車道につきましても、引き続き各関係機関と協働して事業化に向けた要望活動を進め、早期着工を実現させたいと考えます。

### 1-2 コミュニティバスの導入

多くの市民は移動に自動車を利用されています。しかし、市民の15%は運転免許証をお持ちではなく、高齢化の進行とともに、この率は今後も増加が予想され、買い物や通院など「生活の足」としての交通網整備が必要です。

そこで、市内全域展開を目標に、コミュニティバスの整備を進めます。コミュニティバスの運賃は一律100円で、平成18年度は員弁町で実証実験運行を行い、気軽に利用でき、親しみやすい、身近なバスをめざします。

コミュニティバスについては、市民のみなさんから大きな期待をいただいておりますが、一方で大きな財政負担をもたらさないようにすることが肝要です。それには多くの市民のみなさんがまず利用していただきますよう、また地域企業のみなさんには、広告・協賛などご支援いただきますようお願いいたします。

### 1-3 北勢線の利用促進

鉄道は自動車社会の進展により全国的に利用者が減少し、各地で廃線を余儀なくされています。しかし交通渋滞もなく、排気ガスも出ない鉄道は「目的地まで正確な時間で到着でき、しかも環境にやさしい」乗り物であり、子どもや高齢者など、車を運転できない方でも利用できる便利な移動手段です。

北勢線は地域住民の大切な足として、市民・三岐鉄道・沿線市町と力を合わせて整備を進め、市としては駐車・駐輪場整備やPR看板の設置、コミュニティサイクル事業などを展開してきました。おかげさまで平成17年度には、利用者の減少傾向が反転し、対前年度比で10%の収入増が見込めるまでになりました。しかし、未だ赤字状態にあり、引き続き利用促進が必要です。

平成18年度は、旧大泉東駅の桑名方面のカーブを緩やかにする工事など従来の北勢線高速化に加え、西桑名駅移設、冷房車両導入などを三岐鉄道が整備し、また市事業のコミュニティバスと連動させ、スムーズな乗り継ぎによる利便性を向上させ、利用者